

787E

ご使用のしおり

N2600E

JANOME
ELECTRONIC SPEED CONTROL

お買い求めいただき、ありがとうございました。

お客様にいつでもお気がるに使っていただくため、
ジャノメが心をこめて作りあげたミシンです。

はじめてお使いになる方には使いやすく、また、使いなれた方
にもいろいろな実用縫いが簡単にできますので、
充分ご満足いただけたと思います。

どうぞ、この《ご使用のしおり》をお読みになって
末ながくご愛用下さい。

万一、使い方・修理などのアフターサービスが必要なときは、
お買い上げ店にお申しつけ下さい。

目 次

基 礎 編

●各部の名まえ	2～3
●標準付属品	3
●おとり扱いについてのお願い	4
●補助テーブル	4
●小物入れ	4
●糸立て棒	5
●電源のつなぎかた	5
●照明ランプ	5
●スタート・ストップボタン	6
●スピードコントロールつまみ	6
●ダーニングプレート	6
●布と糸と針の関係	7
●針のはずしかた、つけかた	7
●返し縫いボタン	8
●押えあげ	8
●押えのはずしかた、つけかた	8
●押えホルダーのはずしかた、つけかた	9
●ボビンケースのはずしかた	9
●ボビンのはずしかた	9
●ボビンに下糸を巻くには	10
●ボビンをボビンケースに入れるには	11
●ボビンケースをかまに入れるには	11
●上糸を掛けるには	12
●糸通しの使い方	13
●下糸を引きあげるには	14
●糸調子を出すには	14
●下糸調子を調節するには	14
●模様選択ダイヤル(模様の選びかた)	15

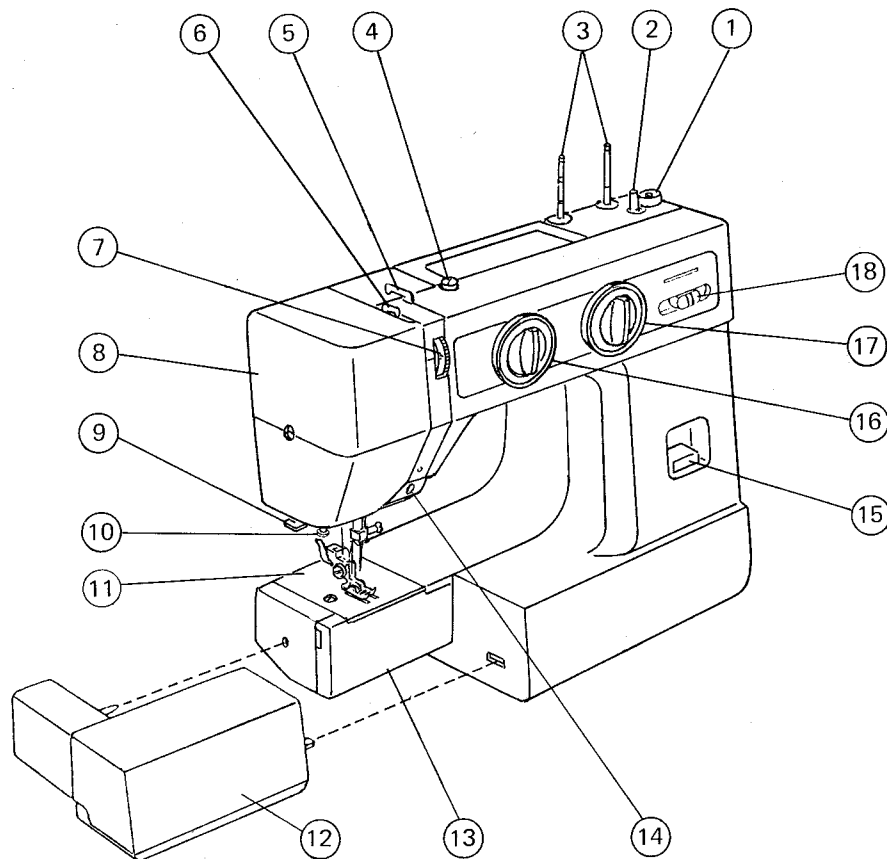
●送りダイヤル(縫い目あらしの調節)	16
●直線縫い	17
★縫いはじめ	17
★縫い方向をかえる	17
★縫いおわりと糸の切りかた	17
●ジグザグ縫い	18

応 用 編

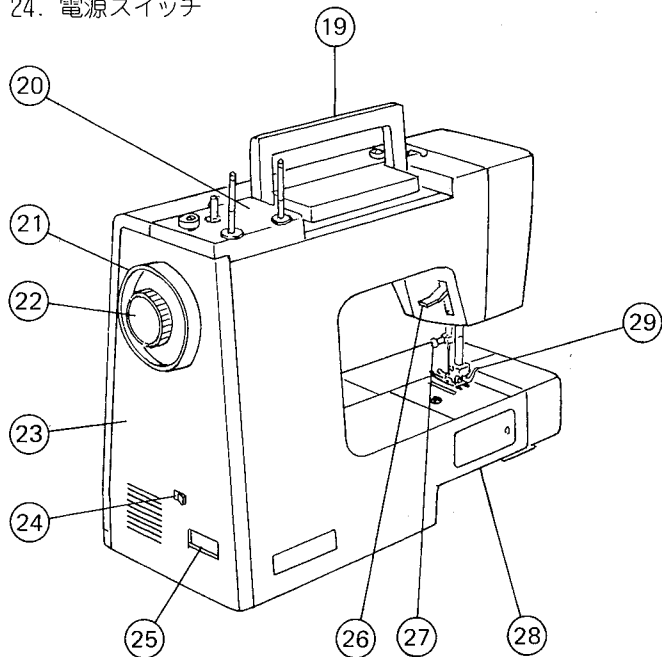
●ジグザグ縫い裁ち目かがり	19
●裁ち目かがり	19
●三重縫い	20
★三重直線縫い	20
★三重ジグザグ縫い	20
●トリコットステッチ	20
●くけ縫い	21
●ボタン穴かがり	22
●ボタンつけ	23
●ファスナーつけ	24
●シェルタック	25
●フェザーステッチ	26
●スーパーム様縫い	26
●スマッキング	27
●ししゅう	28
●送り歯の手入れ	29
●かまの手入れ	29
●注油のしかた	30
●ミシンの調子が悪いとき	31～32

●各部の名まえ

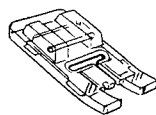
1. ボビン押え
2. 糸巻き軸
3. 糸立て棒
4. 糸巻き糸案内
5. 糸掛け
6. 天びん
7. 糸調子ダイヤル
8. 面板
9. 糸切り
10. 糸通し
11. 針板
12. 補助テーブル
13. ベッドふた
14. スタート・ストップボタン
15. 返し縫いボタン
16. 模様選択ダイヤル
17. 送りダイヤル
18. スピードコントロールつまみ



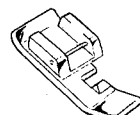
- | | |
|--------------|---------------|
| 19. 手さげハンドル | 25. プラグ受け |
| 20. 天板 | 26. 押え上げ |
| 21. はずみ車 | 27. 針止めネジ |
| 22. クラッチダイヤル | 28. フリーアーム |
| 23. ベルトカバー | 29. 押えと押えホルダー |
| 24. 電源スイッチ | |



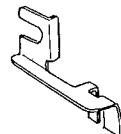
●標準付属品



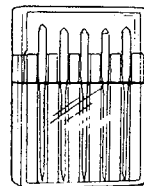
ボタンホール押え



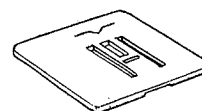
ファスナー押え



くけ縫いガイド



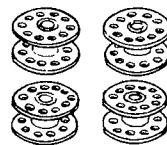
針ケース(針5本入)



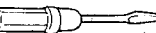
ダーニングプレート



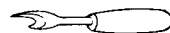
油さし



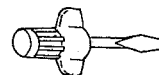
ボビン



ねじまわし(小)



リッパー



ねじまわし(大)

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

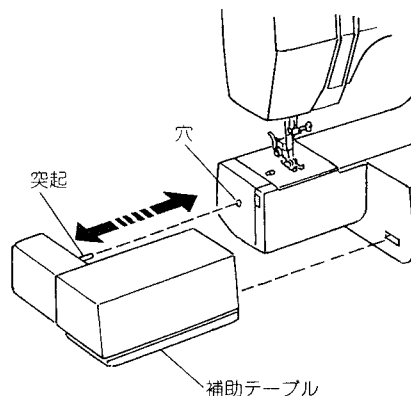
- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後 ■ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

★ご使用の前に……

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、ミシンをよくふいてください。
- ②ミシンをセットしたり、押え、針を交換するときには、この《ご使用のしおり》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

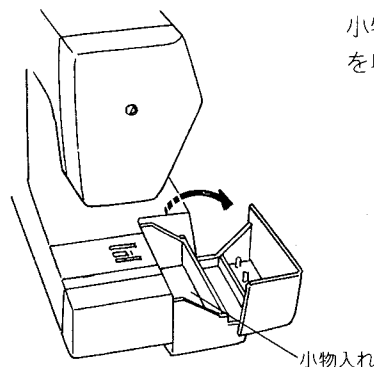
●補助テーブル



★補助テーブルのはずしかた
補助テーブルを横に引いては
ずします。

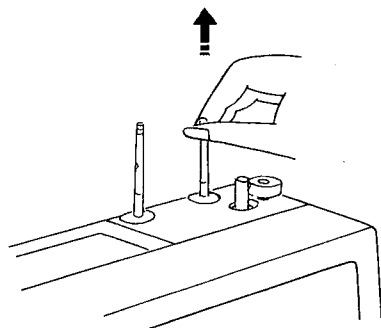
★補助テーブルのつけたか
補助テーブルをフリーアーム
にそってさしこみ、突起を穴
におさめます。

●小物入れ



小物入れは、付属品や小物類
を収納するために使います。

●糸立て棒

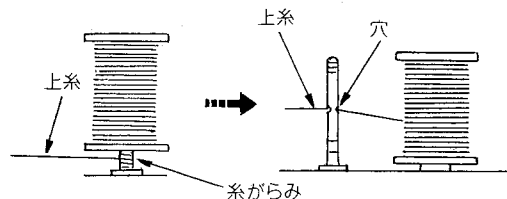


糸立て棒は、ミシン本体に収納されていますので、糸立て棒をいっばいに引きあげてセットしてください。
糸立て棒をミシン本体へ収納するときは、押しさげてください。

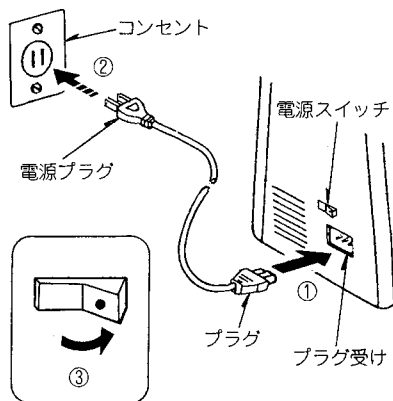
《糸がらみしやすい糸のとき》

糸立て棒の穴に糸を通すと糸がらみが防げます。

※糸立て棒の穴は真横に向けてください。

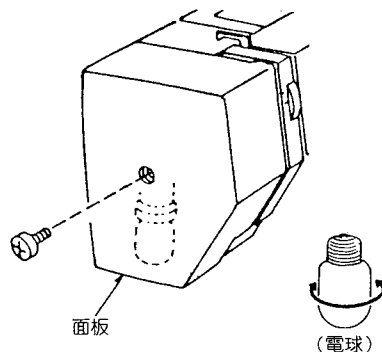


●電源のつなぎかた



- ①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
 - ②電源プラグをコンセントにさしこみます。
 - ③スイッチを「入」にします。
- ※電源は、一般家庭用(100 V 50/60Hz)です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

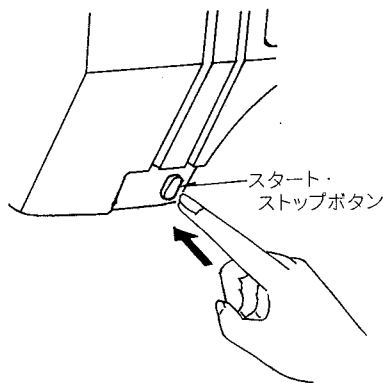
●照明ランプ



《電球のとりかえかた》

面板をはずしてとりかえます。
はずすとき………左へまわす
つけるとき………右へまわす
※電球のとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

●スタート・ストップボタン



スタート・
ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからセットした速さで縫います。

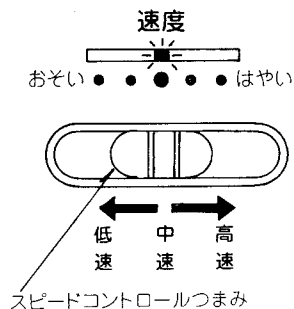
もう一度押すと、針が上の位置で止まります。

※ミシンが動いている間に、電源プラグが抜けるなどして電源が切れたときは、再び電源を入れてもミシンは動きません。

もう一度スタート・ストップボタンを押してください。

※糸巻き軸が糸巻き状態になっているときに、スタート・ストップボタンを押すとミシンはゆっくりスタートにならず、セットした速さで動きはじめますので注意してください。

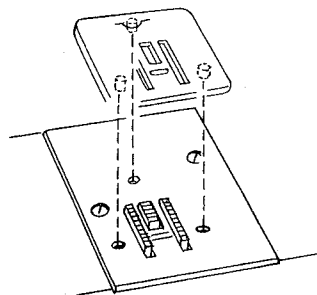
●スピードコントロールつまみ



縫う速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

カーブや細かいところを縫う時は、低速で縫いましょう。

●ダーニングプレート



ダーニングプレートの裏についているピンを針板の穴におさめます。

ダーニングプレートは、ボタンつけやししゅうなど、ミシンが布を送らないようにするときに使います。

●布と糸と針の関係

布に適した糸と針の目安			
布		糸	針
うすい布	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガジー、ジョーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
普通の布	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14番
厚い布	デニム、ツイード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番

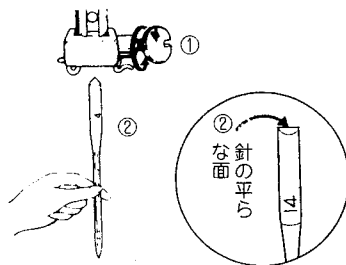
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。

この表を目安に、糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。

●針のはずしかた、つけかた

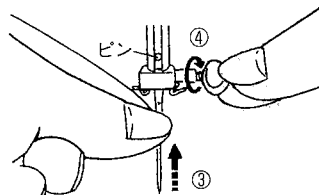


①針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針ははずします。

②針の柄の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさしこみます。

③針を、奥いっぱい、ピンにあたるまで入れます。

④針止めねじを、向こう側にまわして、かたくしめます。

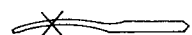


《針の選びかた》

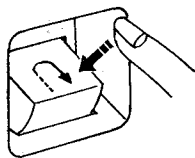
■針の太さを示す番号は、柄に表示してあります。数字が大きくなれば太くなります。

■ブルー針は、柄の部分が青色をしています。

※針の全体が曲がってしまったものや、針先がつぶれたり曲がったりしたものは、使用しないでください。



●返し縫いボタン

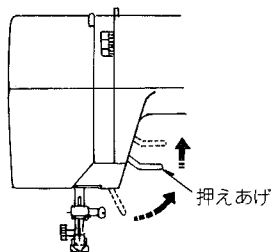


返し縫いボタンを押すと、ミシンは低速で返し縫いをはじめ、指をはなすと止まります。

ミシンを動かしている途中で返し縫いボタンを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

※針に糸を通したり、針や押えをとりかえたりするときに、不用意に返し縫いボタンにふれると、ミシンが動きますのでご注意ください。

●押えあげ

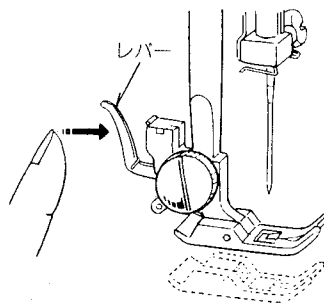


はずみ車を軽く手前にまわし、針を最上部にあげます。

押えあげをあげさげして、押えをあげたり、さげたりします。

押えあげを、あげた位置よりさらに高くあげると、押えの位置もさらにあがります。

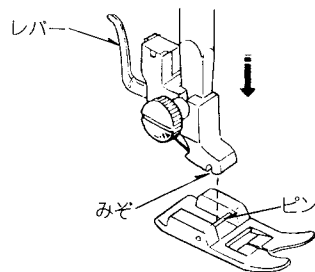
●押えのはずしかた、つけかた



《はずしかた》

押えあげをあげ、押えホルダーのレバーを押します。

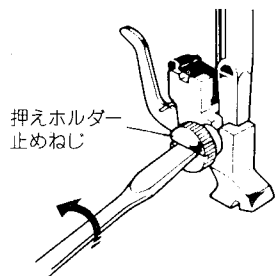
※押えを、無理に引いて、はずさないでください。



《つけかた》

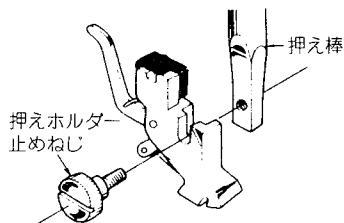
押えのピンを、ホルダーのみぞの真下において、押えあげを静かにおろし、ピンをみぞに入れます。

●押えホルダーのはずしかた、つけかた



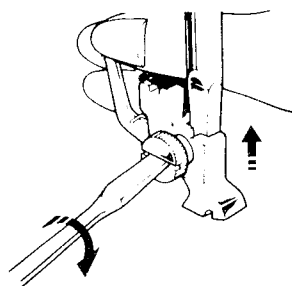
《はずしかた》

- ①押えあげをあげ、押えをはずします。
- ②押えホルダー止めねじを、ねじまわして左にまわしてはずします。



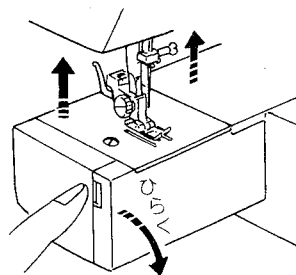
《つけかた》

- ①押えホルダーのみぞと、押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみます。

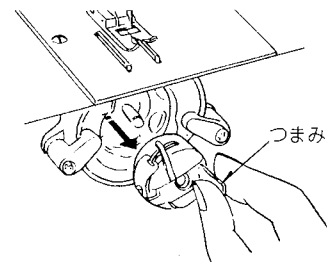


- ②ホルダーを上押しあげながら、ねじまわして押えホルダー止めねじを右にまわして、しっかり、とりつけます。

●ボビンケースのはずしかた



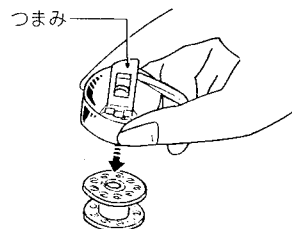
- ①針と押えをあげます。



- ②ベッドふたをひらきます。

- ③ボビンケースのつまみをおこして、とりだします。

●ボビンのはずしかた

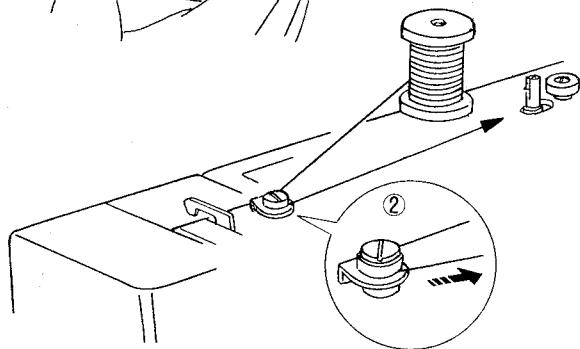


- ボビンケースのつまみをとじて下に向けると、ボビンがはずれます。

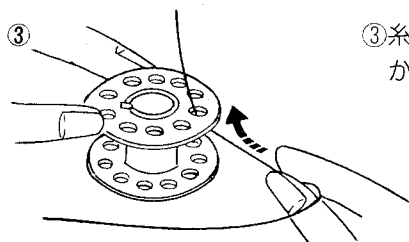
●ボビンに下糸を巻くには

① クラッチダイヤル ①はずみ車を押えて、クラッチダイヤルを手前側にまわします。

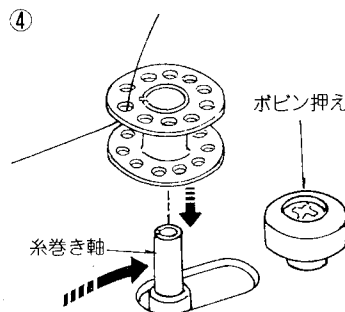
②糸こまから引き出した糸を糸巻き系案内に掛けます。



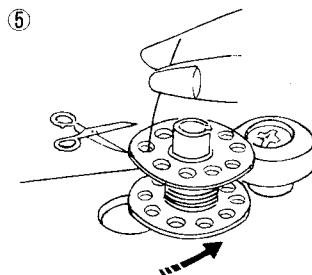
③糸の先をボビンの穴に内側から通します。



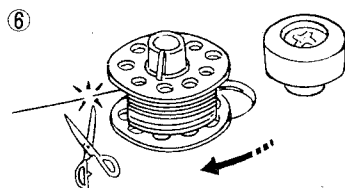
④ボビンを糸巻き軸にさしこみ、糸の端を指でつまんでボビンをボビン押えの方向に押します。



⑤糸の端を指でつまんだままスタート・ストップボタンを押してミシンを動かし、ボビンに糸が5～6回巻きついたら、ボタンを押してミシンを止め、穴のきわで糸を切ります。

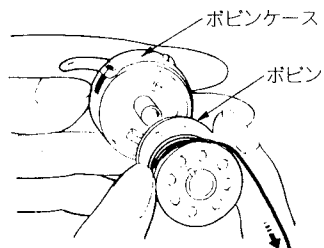


⑥再びスタート・ストップボタンを押して適量になるまで糸を巻きつけ、ミシンを止めて、糸巻き軸をもとにもどして糸を切り、クラッチダイヤルを向う側に止まるまでまわします。

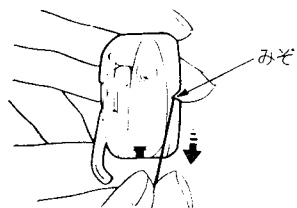


※糸巻き軸の移動は、ミシンを止めてからおこなってください。

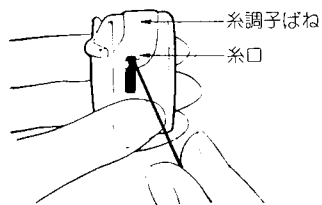
●ボビンをボビンケースに入れるには



①下糸を巻いたボビンを、図の方向(時計回り)に、糸の端をたらして、ボビンケースに入れます。

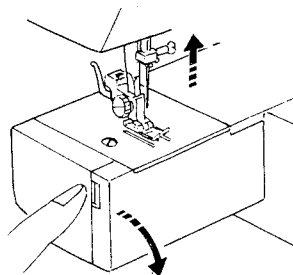


②みぞに糸を通します。

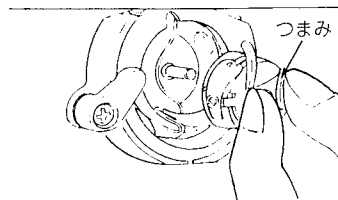


③糸を引いて、糸調子ばねの下を通し、糸口に引き出します。

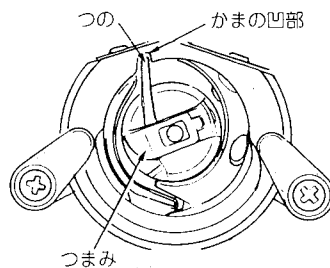
●ボビンケースをかまに入れるには



①針をあげ、ベッドふたをひらきます。

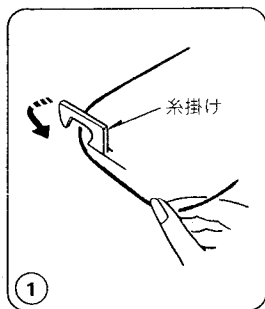
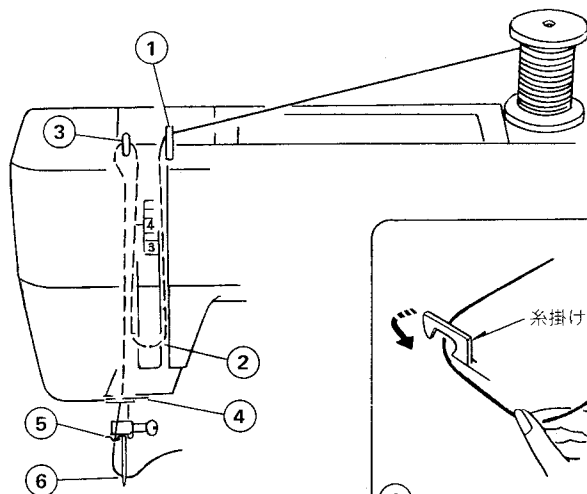


②ボビンケースのつまみを起こして、かまにとりつけます。



③ボビンケースのつのを、かまの凹部に合わせ、奥の方へいっぱいに入れてから、つまみをはなし、ベッドふたをしめます。

●上糸を掛けるには



押え上げをあげ、はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。

糸こまを押えながら、正しく糸を掛けてください。

①糸こまから糸を引き出して糸掛けの向う側から糸案内板の右側にそって下におろします。

②糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。

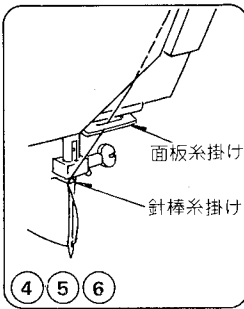
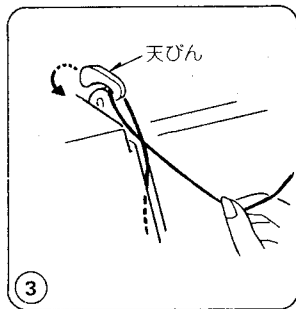
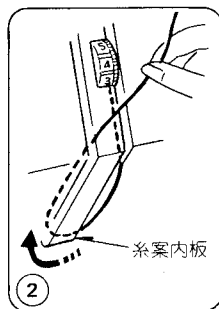
③天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。

④面板糸掛けに右から掛けます。

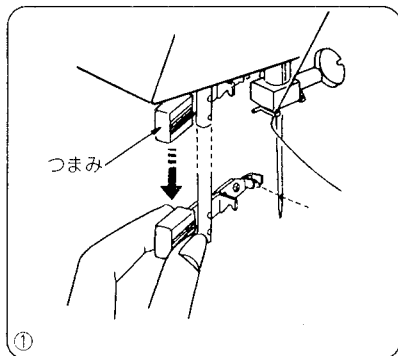
⑤針棒糸掛けに左から掛けます。

⑥糸通しを使って針に糸を通します。(糸通しの使い方は、13ページをごらんください。)

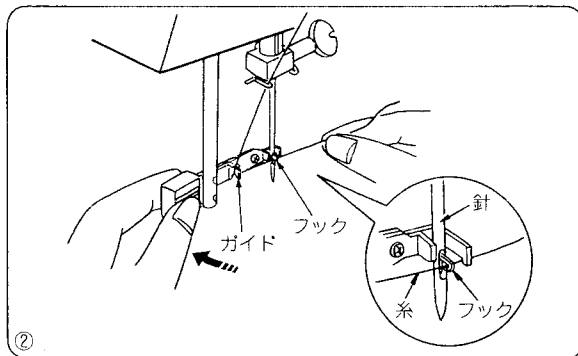
※糸がらみしやすい糸のときは、5ページをごらんください。



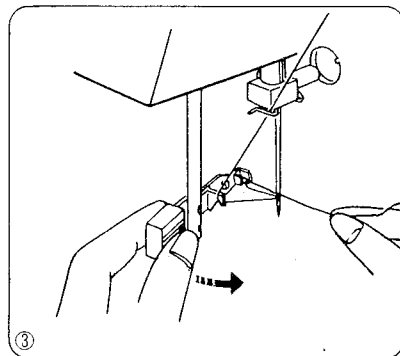
●糸通しの使いかた



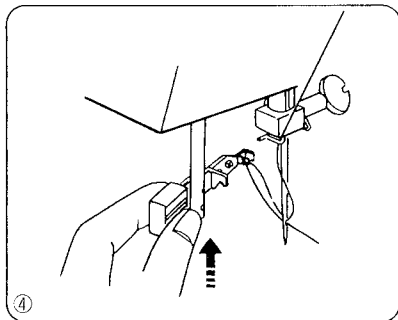
①針を上げて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。



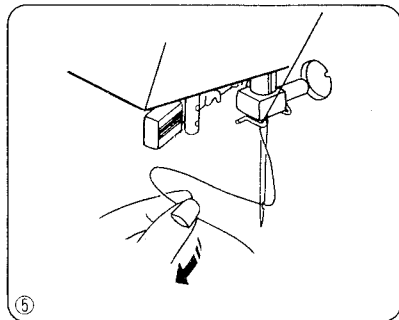
②つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックに掛けます。



③つまみを矢印方向に引くと糸が輪になって出てきます。

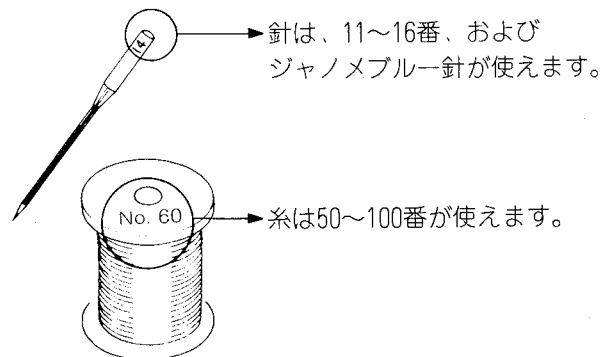


④つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

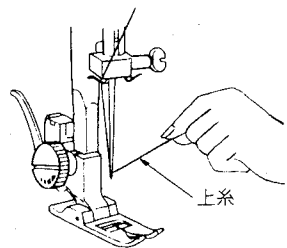


⑤糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

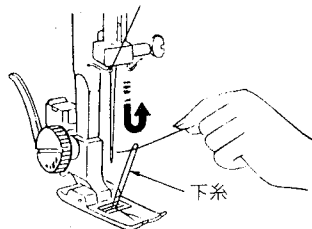
★針があがっていることを確かめましょう。



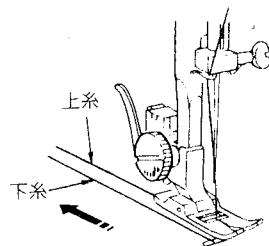
●下糸を引きあげるには



- ①左手で上糸の端をつまんで
ややゆるめて持ちます。



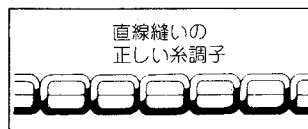
- ②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてから再びあげます。
天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸が「輪」になって出てきます。



- ③出てきた下糸と上糸を、押えの下から向こう側へ、15 cmほど引き出して、そろえておきます。

●糸調子を出すには

素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。
糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

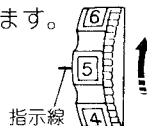


上糸と下糸が布のほぼ中央で、まじわります。



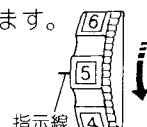
布の上に下糸が出ます。

上糸調子を弱めます

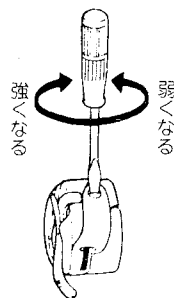


布の下に上糸が出ます。

上糸調子を強めます



●下糸調子を調節するには

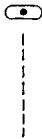
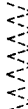
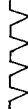
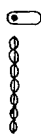
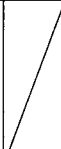
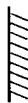
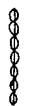


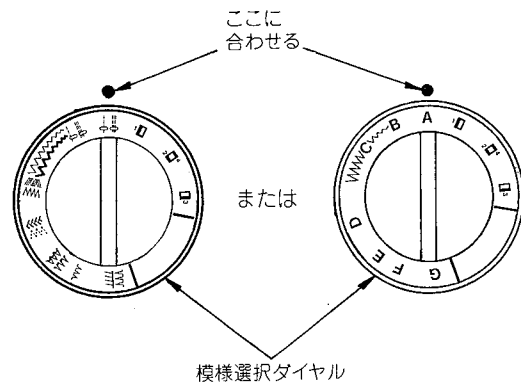
ボビンケースの調子ねじをまわして調節します。

右にまわすと、下糸調子は強くなり、左にまわすと下糸調子は弱くなります。

●模様選択ダイヤル(模様の選びかた)

縫い目をえらぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

模様選択 ダイヤル	A 	B 	C 	D 	E 	F 	G 	  
送り ダイヤル	1~4	1~4	0.3~4	0.5~2	1~3	1~3	2~3	0.3~1
縫い 目								
模様選択 ダイヤル	A 	B 	C 	D 	E 			G 
送り ダイヤル	S. S.							
スー パー 模様								
								



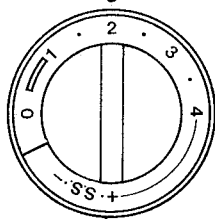
針をあげてダイヤルをまわし、縫い目をえらびます。

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針がまがったり、折れたりする原因になります。

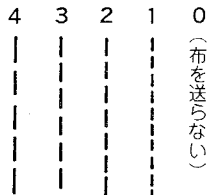
●送りダイヤル(縫い目あらさの調節)

ここに合わせる

送りダイヤルをまわして、縫い目のあらさをセットします。

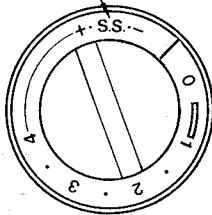


送りダイヤル



模様選択ダイヤルを $\downarrow$ (A) または $\uparrow$ (B) に合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、送り(縫い目のあらさ)は左図のように変化します。

S.S.に合わせる



《スーパー模様の選び方》

送りダイヤルを S. S. に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ模様は、スーパー模様になります。(15ページ参照)
※指示マークに、S.S.を一致させたところが、模様を正しく縫える目安の位置です。

《例》

模様がつまっているとき

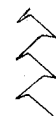


送り調節ねじを「+」の方向にまわす。

形が整う。



模様が伸びているとき



送り調節ねじを「-」の方向にまわす。

形が整う。



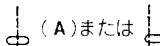
■スーパー模様の形の整え方

模様の形が整わないとき、伸びている場合は「-」方向に、つまっている場合は「+」方向に、送りダイヤルをまわして調整します。

●直線縫い

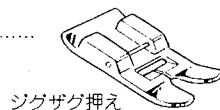
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....2~6

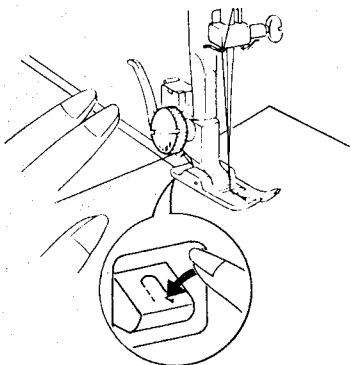
模様選択ダイヤル..... (A)または (B)

送りダイヤル.....1~4

押 え.....



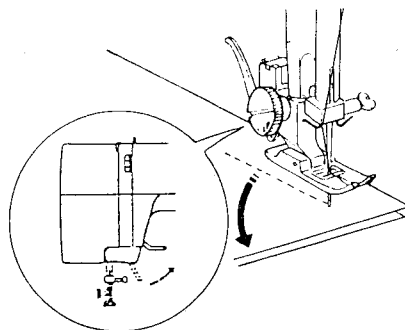
《縫い方》



★縫いはじめ

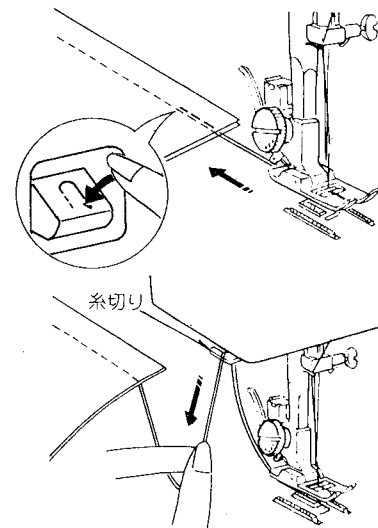
糸と布を左手で押え、
はずみ車を手前にまわ
して、縫いはじめの位
置に針をさします。押
え上げをさせて、スタ
ート・ストップボタン
を押して、ゆっくり縫
いはじめます。

※縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いボタンを押して、
数針返し縫いをします。



★縫い方向をかえる

ミシンを止め、針を布にさし
たままで押え上げをあげ、布
をまわして縫い方向をかえま
す。



★縫いおわりと糸の切りかた

返し縫いボタンを押して、数
針返し縫いをします。
押え上げをあげて、布を向こ
う側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

●ジグザグ縫い

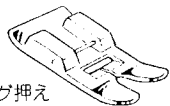
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....2~5

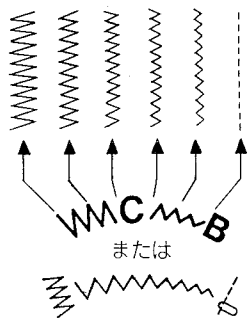
模様選択ダイヤル..... (C)

送りダイヤル.....0.3~4

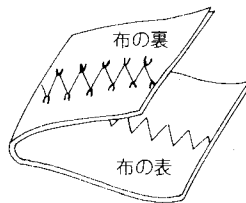
押 え.....



ジグザグ押え



※送りダイヤルを(1)に合わせて、模様選択ダイヤルをの間でかえると、縫い目の巾(ジグザグ巾)は、図のように変化します。



《ジグザグ縫いの糸調子》

ジグザグ縫いの糸調子は、布の裏側に上糸が少し出るくらいに調節します。

●ジグザグ縫い裁ち目かがり

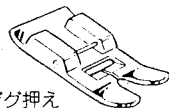
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....3～7

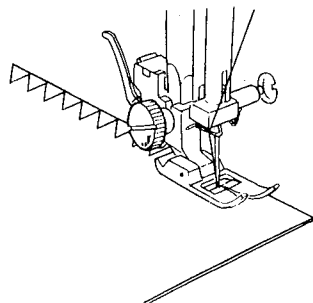
模様選択ダイヤル..... (C) (ジグザグ巾最大)

送りダイヤル.....1～2

押 え.....



ジグザグ押え



裁ち目のほつれ止めをするときには、針が、右側にきたとき、布のきわから、はずれるかはずれないかぐらいのところに落ちるようにします。

※試し縫いをして、適切な糸調子をだしてください。

※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●裁ち目かがり

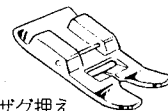
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....3～7

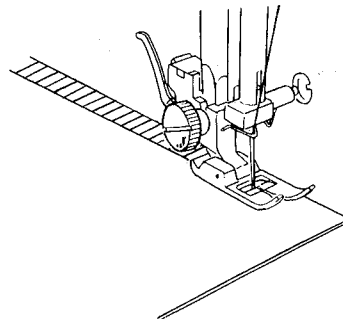
模様選択ダイヤル..... (G)

送りダイヤル.....S.S.

押 え.....



ジグザグ押え



裁ち目のほつれ止めをするときには、針が、右側にきたとき、布のきわから、はずれるかはずれないかぐらいのところに落ちるようにします。

※試し縫いをして、適切な糸調子をだしてください。

※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●三重縫い

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....2~6

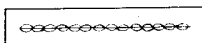
模様選択ダイヤル..... (A)  (B) または  (C)

送りダイヤル.....S.S.

押 え



★三重直線縫い



補強縫い、飾り縫いに使います。

★三重ジグザグ縫い



飾り縫いに使います。

※布が前後しますので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●トリコットステッチ

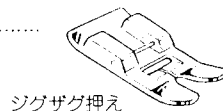
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....3~6

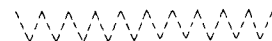
模様選択ダイヤル..... (D)

送りダイヤル.....0.5~2

押 え



縫い目



この縫い目で布のへりをかかると、布のほつれ止めや、かえり防止に効果があります。また、伸びやすい布どうしのはぎ合わせにも利用できます。

※目のとびやすい伸縮性の布や目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

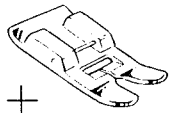
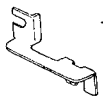
●くけ縫い

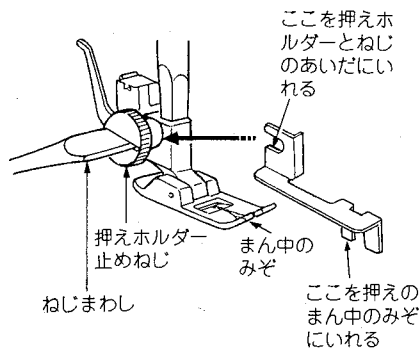
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....1~4

模様選択ダイヤル..... (E) または  (F)

送りダイヤル.....1~3

押 え.....
 + ジグザグ押え
くけ縫いガイド

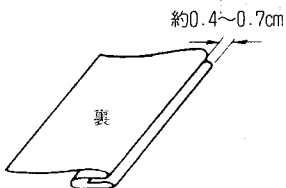
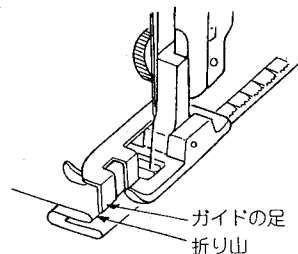


②押えをあげて、押えホルダー止めねじを2~3山ゆるめて、くけ縫いガイドをとりつけます。

③つけ終わったら、ねじをしめます。

④ガイドの足に、折り山をぴったりあてて縫います。

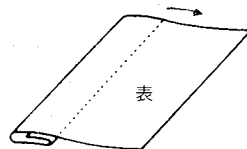
⑤縫い終わったら、布をひろげます。



《縫いかた》

①布を図のように、上の折り山と下の折り山を約0.4~0.7cmほどずらします。

※アイロンで押えると、きれいに仕上がります。



●ボタン穴かがり

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....1～5

模様選択ダイヤル.....1 → 2 → 3 → 4

送りダイヤル.....0.3～1

押 え.....



ボタンホール押え

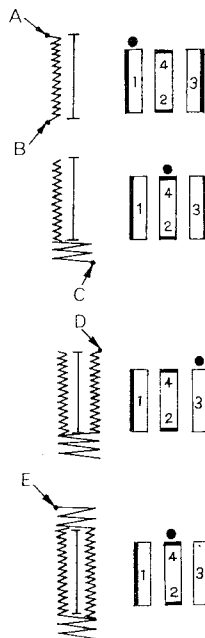
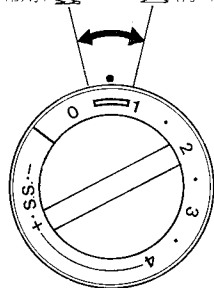
※縫うものと同じ布で、試し縫いをして、確かめてから縫ってください。

※伸縮性のある布には、布の裏に伸びにくい芯地をはってください。

※ボタン穴の位置と大きさをチャコでしるしをつけてください。

細かい縫い目
(薄布用)

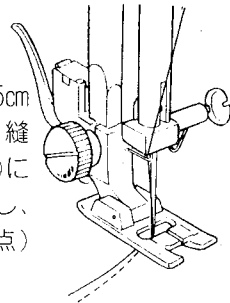
あらい縫い目
(厚布用)



《縫いかた》

①模様 1 を選びます。

上糸・下糸を左横へ15cmほど引き出しておき、縫いはじめの位置(A点)に針をさして押えをおろし、左側を必要な長さ(B点)まで縫います。

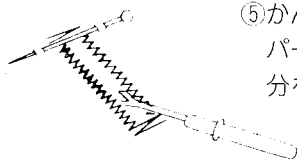


②針をあげて模様 2 を選び、かんぬき5針くらい(C点)まで縫い、ミシンを止めます。

③針をあげて、模様 3 を選び、左側と同じ長さ(D点)まで縫い、ミシンを止めます。

④針をあげて、模様 4 を選び、かんぬきを5針くらい(E点)まで縫ったら、模様選択ダイヤルをまわして 1 (B)に合わせて、数針止め縫いをします。

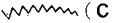
⑤かんぬきの内側にまち針を縫いさし、リッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。



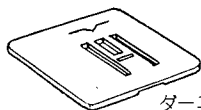
●ボタンつけ

《セットのめやす》

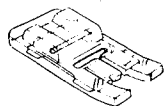
糸調子ダイヤル.....3~7

模様選択ダイヤル.....  (C) ※ボタン穴の巾に合わせる

押 え.....



ダーニングプレート

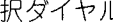


ボタンホール押え

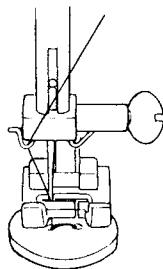
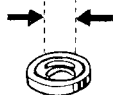
※送りダイヤルの操作は必要ありません。

※ダーニングプレートの使い方は、6ページをごらんください。

《縫いかた》

- ①模様選択ダイヤルをまわして  (C) に合わせます。ボタンの左の穴に針をさし、左右の穴を真横にならべて押えをおろします。
- ②針をあげ、模様選択ダイヤルをまわして、ボタンの右の穴に針が落ちるようにします。針が右に移動しない場合には、はずみ車を手前にまわして、針をいったんさげてから、再び針をあげて、模様選択ダイヤルをまわします。
- ③5~6回縫ったら、模様選択ダイヤルを  (B) に合わせて、数針止め縫いをします。

ボタン穴の巾



●ファスナーつけ

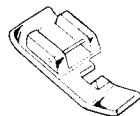
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....3~6

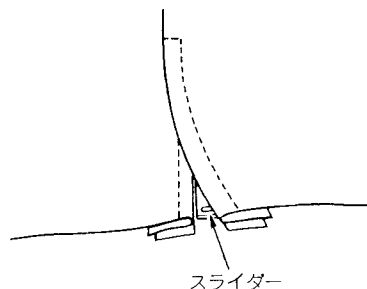
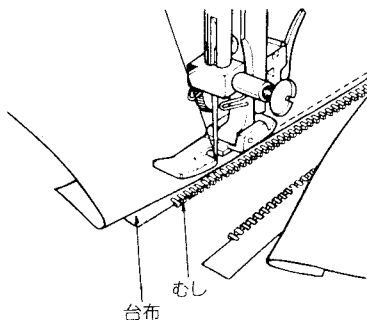
模様選択ダイヤル..... (A)

送りダイヤル.....1.5~4

押 え.....



ファスナー押え



《縫いかた》

- ① 台布を布にしつけて止め、スライダーをしめます。
- ② 上糸・下糸を押えの下から向こう側に引き出します。
- ③ ファスナーの左側を縫うときは、針がむしのきわに落ちるようにします。
- ④ 中ほどまで縫ったら、針を布にさしたままで押えをあげ、スライダーを押えの向こう側にずらして、押えをおろし、残りを縫います。
- ⑤ ファスナーの右側を縫うときは、布をまわして、布の上からむしのきわに針が落ちるように縫います。
左側を縫うときと同様に、中ほどでスライダーをずらして縫います。

●シェルタック

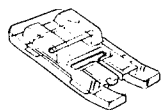
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....3~9

模様選択ダイヤル..... (G)

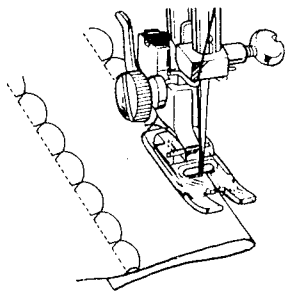
送りダイヤル.....2~3

押 え.....



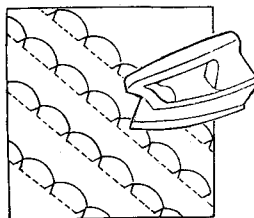
ボタンホール押え

※糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調節します。



《縫いかた》

①うす手の布をパイアスに2つ折りにし、右側を輪(わ)にして押えの下におきます。はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。



②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

●フェザーステッチ

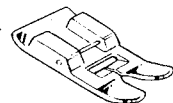
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル..... 1～4

模様選択ダイヤル..... (D)

送りダイヤル..... S.S.

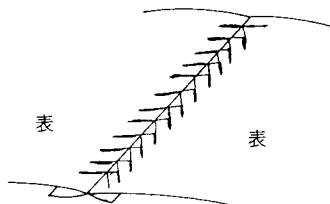
押 え



ジグザグ押え

《縫いかた》

布を中表に合わせて地縫いをし、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫い線を中心にして縫います。



※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

●スーパー模様縫い

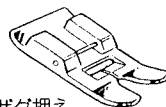
《セットのめやす》

糸調子ダイヤル..... 1～4

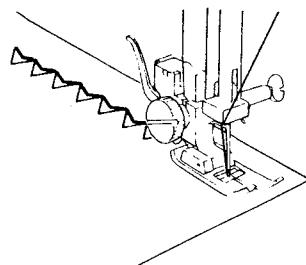
模様選択ダイヤル..... (A), (B), (C), (D), (E), (G)

送りダイヤル..... S.S.

押 え



ジグザグ押え



布が前後するので、縫い目がまがらないように注意して縫います。

※目のとびやすい伸縮性の布や、目のつんだ布には、ブルー針を使用すると効果があります。

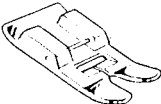
●スモッキング

《セットのめやす》

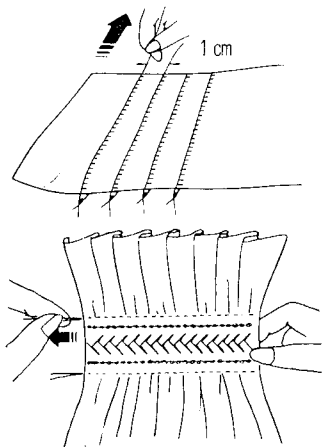
糸調子ダイヤル..... 1~4

模様選択ダイヤル.....  (A),  (D)

送りダイヤル..... S.S.

押 え..... 

ジグザグ押え



《縫いかた》

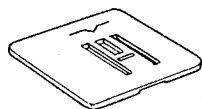
- ①上糸調子を弱くして縫い目の
あらか 0.3~0.4cmの直線を、
1cmの間かくで数本縫います。
- ②上糸と下糸を布の片側で結び
反対側から下糸を引いて、ひ
だをよせ、上糸と下糸を結び
ます。
- ③直線縫いの糸と糸の間に模様
縫いをしてから、直線縫いの
糸を抜きとります。

●ししゅう

《セットのめやす》

糸調子ダイヤル.....0~4

模様選択ダイヤル..... (A)



ダーニングプレート

押えと押えホルダーをはずす。

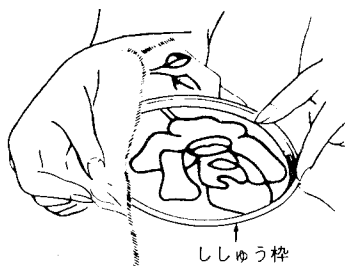
※送りダイヤルの操作は必要ありません。

※糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。

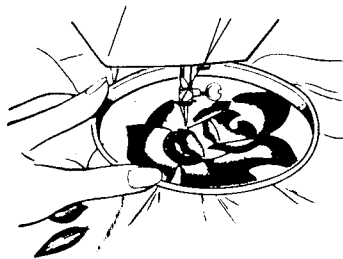
※模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチョークで印をつけてください。

※ししゅう枠は標準付属品には含まれておりません。

※ダーニングプレートの使い方は、6ページをごらんください。



ししゅう枠

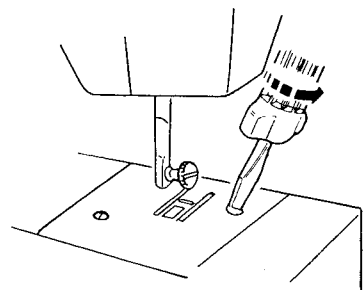


《縫い方》

- ①布をししゅう枠にピンと張ります。
- ②上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押えあげをおろします。
- ③はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
- ④左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切ります。
- ⑤ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくり縫いながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、もようを縫います。

※動いている針に手を近づけすぎて、刺さないように気をつけましょう。

●送り歯の手入れ

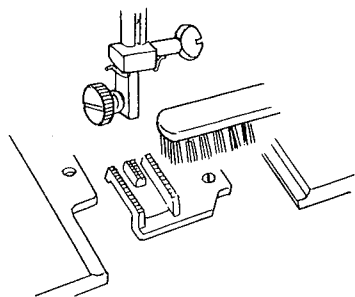


①針と押えをはずします。

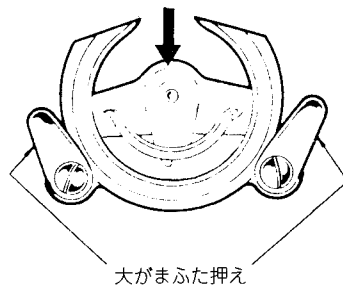
②針板のしめねじをねじまわしてはずして、針板をはずします。

③送り歯のごみを、はけ、ブラシなどで手前に落とします。

④針板をつけて、ねじまわして、ねじをしめます。



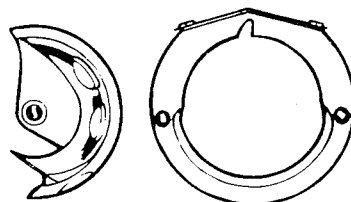
●かまの手入れ



①針をあげて、ベッドふたをあけ、ボビンケースをはずします。

②大がまふた押えを左右にひらき、大がまふたと中がまをはずします。

大がまふた押え

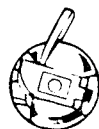


中がま

大がまふた

③ブラシでかまの内部を掃除し、矢印のところに1～2滴ミシン油を注油して、布で軽く拭きとります。

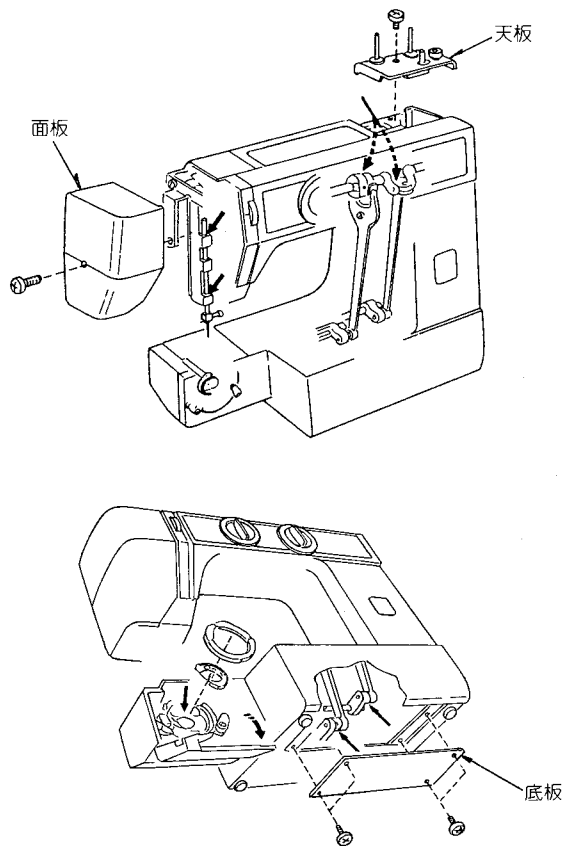
④中がまを油布で拭きます。



ボビンケース

⑤はずしたときと逆の順序でくみつけます。

●注油のしかた



ねじをゆるめて、面板・天板・底板をはずします。

ミシンの動きを軽くなめらかにし、長もちさせるために、図の矢印の部分に良質のミシン油を1～2滴注油して、ミシンを1～2分間ほど速く回転させ、よく油をしみこませます。

一般の家庭では、1週間に1回程度、継続して使用するときは、10時間に1回ぐらい注油します。また、しばらく使用しなかったときは、使用前に一通り注油してください。

※注油が多すぎると、ポピンや布、糸が汚れたり、糸切れの原因となるため、ごく少量を注油してください。

※注油のときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。

※余分な油は、よく拭きとってください。

●ミシンの調子が悪いとき

調子が悪いとき	その原因	なおしかた
上糸が切れる。	1. 上糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけかたがまちがっている。 5. 針板の針穴や、押え、かまなどに傷がついている。 6. 縫い終わったとき、布を横や手前の方向に引いた。 7. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。	上糸を正しく掛けなおす。 上糸調子を弱める。 針を交換する。 正しくつける。 傷のついている部品を交換する。 向こう側に引く。 適切な針や糸をえらぶ。
下糸が切れる。	1. ボビンケースに下糸の通しかたが、まちがっている。 2. ボビンケースの調子ばねを強くしめすぎている。 3. ボビンケースの中やばねの中に、ごみがたまっている。	正しく通しなおす。 ねじを少しだけゆるめて、下糸調子を適切にする。 ボビンケースを掃除する。
針が折れる。	1. 針のつけかたが、まちがっているか、針がまがっている。 2. 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルをまわした。 3. 布を無理に引いた。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 上糸の掛けかたが、まちがっていたり、ミシン操作が、まちがっている。	針を交換するか正しくつけなおす。 針を布より上にあげてからダイヤルをまわす。 布を無理に引かない。 針を交換する。 正しい方法でやりなおす。

調子が悪いとき	その原因	なおしかた
縫い目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 伸縮性のある布や目のつんだ布にブルー針を使っていない。 4. 上糸の掛けかたがまちがっている。	針を交換するか正しくつけなおす。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。 上糸を正しく掛けなおす。
縫い目がしわになる。	1. 上糸または下糸の調子が強すぎる。 2. 布に対して縫い目が細かすぎるか、あらずぎる。 3. 上糸・下糸の掛けかたがまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	糸調子を適切にする。 送りダイヤルを適切にセットする。 糸を正しく掛けなおす。
縫い目に輪ができる。	1. 上糸または下糸の調子が合っていない。 2. 布に対して針や糸が細すぎるか太すぎる。 3. 上糸や下糸の掛けかたがまちがっている。	糸調子を適切にする。 適切な針や糸を選ぶ。 糸を正しく掛けなおす。
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. 縫い目が細かすぎる。	送り歯を掃除する。 送りダイヤルを適切にセットする。
ミシンの回転がでない。 音が高い。	1. 送り歯やかまに、ごみや糸くずがたまっている。 2. かまの油がきれている。	掃除する。 注油する。

※この「ミシンの調子が悪いとき」に書かれている方法で直らないときには、お買上げの販売店へご連絡ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確めの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以後の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけ下さい。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則としてお買い上げ日から8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
④お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し越し下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1
TEL.0120-277039(フリーダイヤル)

〈仕様〉

サイズ：幅390mm×奥行155mm×高さ290mm

重 量：7.6kg(本体)

他に補助テーブル、付属品など(0.3kg)

縫速度：毎分700回転

使用針：家庭用、HA×1

蛇の目マシン工業株式会社

〒104 東京都中央区京橋3-1-1 ☎03(3277)2361-5